

講義名	対)19～日本語C(書く)/15～日本語C【留学生科目】		
担当教員	野村 由香里		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

大学ではレポートの作成、また、卒業論文の執筆が必須である。そこで、この授業では論述文の書き方を基礎から学習する。具体的には、話し言葉と書き言葉の違い、論述文に合う文体、文章の要約、また、文章全体の構成、参考文献の書き方等、順を追って学習していく。

到達目標

留学生が大学でレポートや論文を書く際に必要な基礎知識を身に付けるため、実際に書いたものを教師が添削したり、助言をするという形式で授業をすすめるため、この授業は対面授業で行う。
*但し、学生に通学困難な事情が生じた場合には、学生と相談の上、対延する。

提出課題

授業中に指示

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

授業中に個別に指示

評価の基準

授業中の課題点(60%) 中間・期末テスト(40%)

履修にあたっての注意・助言他

1. 出欠確認は毎回点検を行う
2. 5回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない
3. 授業が始まって15分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻3回で1回の欠席となる
4. 15分以上の遅刻は欠席とみなす(授業は受けてもよい)
5. 授業時には辞書を携帯すること

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

『小論文への12のステップ』友松悦子著 スリーエーネットワーク 2008 ISBN978-4-88319-488-9 C0081
『大学で学ぶための日本語ライティング』佐々木理枝他著 The Japan Times 2006 ISBN4-7890-1221-2
『留学生のための論理的な文章の書き方』三浦信子著 スリーエーネットワーク 2008 ISBN978-4-88319-257-1 C0081

授業計画

1. 授業内容や評価などの説明/表記の仕方1
2. 表記の仕方2
3. 文体
4. 話し言葉と書き言葉
5. 小論文によく使われる表現
6. 段落
7. 要約文を書く1
8. 要約文を書く2
9. 中間期理解度試験の実施及びその解説
10. 意見文を書く1
11. 意見文を書く2
12. 事業を示す方法
13. 引用の表現
14. 小論文のはじめと終わり/参考文献の書き方
15. 総括

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習(90分)
その日に習う事柄に一通り目を通し、分からない言葉があれば調べておく。
復習(150分)
その日に学習したことを、もう一度復習し課題を行う。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマポリシー2「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に關与している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考